

第19回 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」結果概要

- 日時 平成30年8月3日（金）午後2時00分～午後2時45分
- 場所 栃木県総合文化センター3階 第1会議室
- 内容
- 1 開 会
 - 2 あいさつ（森本委員長）
 - 3 報 告
 - (1) LRT車両外観デザインの決定について
 - (2) 「LRT駅交差部等基盤整備部会」の設置について
 - 4 議 題
 - ・ LRTの運賃收受方法について
 - 5 そ の 他
 - 6 閉 会

【主な発言の要旨】

3 報告

- (1) LRT車両外観デザインの決定について・・・資料1

【事務局】

- ・ 資料1 説明

【委員長】

- ・ 車両外観デザインが決定したので、関係部署と協力し、効率的かつ積極的に車両外観デザインをPRするなど、開業に向けた機運醸成などを図っていただきたい。

- (2) 「LRT駅交差部等基盤整備部会」の設置について・・・資料2

【事務局】

- ・ 資料2 説明

【委員長】

- ・ LRT駅交差部等基盤整備部会の部会長である岸井委員から挨拶をいただきたい。

【岸井委員】

- ・ JR宇都宮駅とLRTの交差部については、これまで、宇都宮市がJR東日本と協議をしながら調査・検討を進めてきたところであるが、今後、JR宇都宮駅西側におけるLRTの整備計画を具体化していくためには、交差部の横断ルートを早期に確定していくことが必要不可欠である。

- ・ L R T 駅交差部等基盤整備部会においては、委員の皆様のご協力のもと、技術的な観点を中心に、多角的な議論をいただきながら、最適な横断ルートを部会としてとりまとめ、芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会で報告させていただきたい。

【委員長】

- ・ L R T 駅交差部等基盤整備部会については、駅東口の駅の位置にも関連しており、時間も限られているので、効率的かつ十分な審議をお願いしたい。
- ・ L R T 駅交差部等基盤整備部会で議論した内容については、適宜、芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会で報告いただきたい。

4 議題

- ・ L R T の運賃收受方法について・・・資料3

【事務局】

- ・ 資料3 説明

【委員長】

- ・ L R T 車両部会の部会長である望月委員から L R T 車両部会での意見をいただきたい。

【望月委員】

- ・ 第5回 L R T 車両部会において、「内装レイアウト」や「勾配区間への対応」、「運賃收受方法」について、意見をいただいた。
- ・ 「内装レイアウト」や「勾配区間への対応」については、今後、車両設計認可申請に向け、検討を深めていくこととしており、L R T 車両部会での検討状況については、後日報告させていただく。
- ・ 「運賃收受方法」については、本日の議題でもあり、L R T 車両部会での意見をまとめたものを紹介させていただく。
- ・ 「ICカードシステムについては、バス事業者が先行導入するなど、L R T が開業するまでに地元の宇都宮市で普及している事が想定され、運賃收受のメインシステムとする事は妥当である。」
- ・ 「ICカード利用者の運賃收受方法については、定時性・速達性が確保でき、利便性も高く、衆人環視が可能なため運転士の直接の確認がなくても確実な運賃收受も見込まれることから、全ての扉を活用した信用乗車を導入していくためには、「車両内収受が望ましい」という意見を多くいただいている。」
- ・ また、「ICカードの補完システムについては、「システムの簡易性」や「不正乗車

対策の容易性」、「利用者のわかりやすさ」、「運転士の負担軽減」などについて評価・検討すべきであり、ICカードの普及を促進していくことを考慮し、補完システムの整備に対しての過度な投資は避けるべきである。」

【委員長】

- ・ 運賃收受方法は、極めて重要な内容であり、車両設計の関係を考えると、本日はどこまで決めればいいのか、あるいは、次回の芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会で決定するのか。
- ・ 事務局からスケジュールについて説明していただきたい。

【事務局】

- ・ スケジュールについては、本日の議題である運賃收受方法について広く意見をいただき、今後、LRT車両部会で議論を行い、次回の芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会で結論を出していきたい。

【委員長】

- ・ 本日は委員の皆様から意見をいただく、あるいは、大きな方針を出していただき、次回の芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会で決定するというところで、了解した。

【中尾委員】

- ・ 路面電車の運賃收受方法については、現金払いがどうしても1割ないし2割程いる。それが、都市鉄道と運賃收受システムが、ICカード1本で行かない事情がある。
- ・ 現金払いの利用者をどのようにするかについては、様々な意見がでており、先程、望月部会長から評価の視点についても意見をいただいた。
- ・ 軌道運送事業者委員としても、そのような意見が反映されるのであれば、同感であり、異論はない。

【委員長】

- ・ 軌道運送事業者委員である中尾委員からは、技術的に見てもICカードシステムを運賃收受システムのメインシステムとすることが1番望ましいとの意見をいただいた。
- ・ ICカードの補完システムの選定についての評価の視点が、**資料3**の5ページの記載の中で、「システムの簡易性」、「不正乗車対策の容易性」、「利用者のわかりやすさ」、「運転士の負担」とあるが、もうひとつ、「経費的な観点」も入れていただきたい。
- ・ ICカードの補完システムを導入するという事は、追加の整備費用あるいは維持管理費用が発生してくるので、それが多大なコストになると、ICカードの利用者にできるだけ低廉で使用していただきたいという趣旨から離れてしまう可能性があるこ

とから、経費についても評価の視点のひとつに入れていただきたい。

- ・ 都内で鉄道，地下鉄を乗っていると現金利用者とＩＣカード利用者で料金が若干違う。それは，現金の方が維持管理もかかるので，その分だけ，現金の方を少し適正な金額になるという形で差額がでている。今回の宇都宮のケースでも，現金の方は，適正な金額を支払いいただき，ＩＣカード利用者に過度な負担をかけないような視点をぜひ入れて検討していただきたい。

【岸井委員】

- ・ 基本ＩＣカードを活用することについては賛成である。先程，ＩＣカードを普及させるためにも，バスのシステムで先行的に導入する説明があったが，他の交通システムについて，例えば，駐輪場，駐車場，シェアサイクルその他ある中で，宇都宮市ではどれぐらいＩＣカードが利用できるのか。
- ・ なるべく多様に使用できるような仕掛けが望ましいと思う。

【事務局】

- ・ ＩＣカード普及促進策（案）については，**資料3**の3ページに記載があるが，今後の導入予定なので，現在，宇都宮市でＩＣカードが利用できるところはない。
- ・ **資料3**の3ページの記載のところや意見をいただいた駐輪場などでも使用できるように検討していきたい。

【委員長】

- ・ ＩＣカードの利用については多様な利用の仕方が提案されている。
- ・ ＩＣカード自身も変化していることから，ぜひ，まちづくりの一環として，多様な所で使用できるような共通のＩＣカードの形で展開していただきたい。

【行政アドバイザー】

- ・ ＩＣカードの利用率を上げていくには，便利にしていくのが重要である。
- ・ 一方で，10%ぐらいは従来どおり現金を使用したいという状況の中で，あまり補完システムを便利にし過ぎると，利用率の向上を阻害する状況になるが，ＩＣカードを利用できない方の中には情報やＩＴなどに関して不得意な方もいるので，補完システムには一定のわかりやすさが必要である。
- ・ しかし，あまり過度にし過ぎてもいけない部分があるので，評価の仕方やどのような評価をするかについては，工夫，検討，議論が必要であると考えます。

【内野委員】

- ・ ストラスブールでは、場所によって、紙切符とQR乗車券が利用できる所もあった。
- ・ コストがいくらかかるのか試算していただき、コストを含め検討する必要がある。

【吉田委員】

- ・ ICカードの信用乗車方式を中心に確立をしていきたい。
- ・ ICカードの補完システムの方も、現金利用者が1割ないし2割であるので、どのようなシステムが良いのかということこれからLRT車両部会などで議論していきたい。
- ・ 車内移動をさせることが路面電車の悪いところであり、車内移動をさせると利便性が落ちることが指摘されるので、そのようなところも注意しながら、議論をしてシステムを選定したい。

【上野委員】

- ・ 公共交通機関を利用するうえで、若い方のICカードの利用率は高いと思われるが、高齢者のICカードの利用率は全国的には低いように思える。
- ・ 行政としても、ICカードを高齢者も利用できるような支援が必要であると考えます。
- ・ 支援を受けられない方、一時的な利用する方の補完システムとして、わかりやすい現金払いや切符の発行のシステムは外せないと思う。ただし、先程の行政アドバイザーからの意見のように、利便性を高めすぎると、ICカードの利用につながらないようなこともあると思う。
- ・ 最低限の利便性を確保するうえでの補完システムの選定は、費用対効果の面も考えていく必要がある。

【望月委員】

- ・ 別紙2の補完システムについても、別紙1の「○」、「△」のように各項目の評価をしていただき、不正乗車対策費用についても、別紙2の項目に追加していただきたい。
- ・ すべての案でこれが1番良いというのがなく、どこか足りないところもあり、どのような評価をするかにより、最終的な評価につながってくる。各項目において、どの案は「○」、「△」ということがわかるよう次回までに整理していただきたい。
- ・ 信用乗車を行う観点で見ると、別紙2の現金②、紙切符は信用乗車が現実的に出来なくなると思う。信用乗車を行うとなると、現金①、QR乗車券、IC切符である。QR乗車券は、QRコードを読まなくてはいけないので、それを読む機器を入れなくてはいけないので、コストがかかる。
- ・ IC切符は、市販したものでどれくらいのコストで出来るのかというところで決まるが、コストがかかるようであれば、ICカードと同じことなので、あえてIC切符

として出す必要はない。

- ・ 現金②も同じように信用乗車に出来ないので、現金①が良いと個人的には思っている。吉田委員の意見のように、もし現金で乗る人は、後ろに乗車したら、車両を歩いて運転士の横まで移動しなくてはいけないので、利便性のところでそのような議論が出てくると思う。今回のシステムの中で、ICカードを利用して信用乗車を行うことで、ICカードを普及させるのが目的なので、ICカード利用しない方の利便性をどこまで考えるかで結論を出すのが望ましい。
- ・ 事務局の方から論点を出していただいて、各委員の皆様と議論していきたい。

【事務局】

- ・ 補助システムを選定するうえで非常に重要な論点である。
- ・ 利便性が高いサービスが享受できても、費用対効果で費用が高くなるのもあるので、本日いただいた意見を次回のLRT車両部会までに整理する。
- ・ 次回のLRT車両部会で、具体的に議論したうえで、次回の芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会に出していきたい。

【行政アドバイザー】

- ・ ICカードの利用率は、特に首都圏では高まっているが、こだわって現金で支払っている方もおり、ICカードを忘れたり、一時的にICカードが使えない場面もある。
- ・ 全国的にどの事業者もICカード利用率100%はまだ無いと思うので、誰が使用するにも不便がないようにしていただきたい。
- ・ 費用対効果も大切であるので、その辺を考慮しながら、ICカードの補完システムを考えていただきたい。

【行政アドバイザー】

- ・ ICカードだけでは無理だと思っている。基本的には、現金を使えるようにしないと非常に利用者が困ってしまう。その場合には、速達性の問題があり、現金①だと降車口が1か所になるので、そこを工夫出来るのであれば工夫していただきたい。
- ・ 費用の面でコストがかかるので、そこをどこまで抑えて、速達性を確保するという事を事務局の方から提案していただきたい。

【委員長】

- ・ 今後は、本日の各委員の意見などを踏まえ、LRT車両部会で議論を深めていただき、芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会で確認をお願いしたい。
- ・ 最後に事務局から連絡事項などがあればお願いする。

5 その他

【事務局】

- ・ 次回の検討委員会については、後日、改めてご案内させていただきます。
- ・ 以上で、本日の会議を終了する。

以上